夕刊 磐城新聞
四月二十七日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵税共） 廣告料 五號一行 金六十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇五五六番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は東の風曇後雨
明日は南東の風雨後曇

4月28日
△名工左甚五郎歿（寛永一〇）△島津齊彬生（文化六）△エジプト國王崩御（昭和一一）△文化勲章第一回授與式（同一二）

故郷の春

長野文男

（下）

私は少女の傍へ行つて謝つたが始めの中はなか〳〵許すと言つてくれない。學校へ行けないと言つて泣いてゐる。其の少女の妹は私と同級で其の時も一緒にゐた。

私が泣きながらも幾度も謝つたので、漸くうんと、うなづいたが僞の手當に家へ歸ると言ふのである。若し學校を休まれたら、先生にどんなに叱られるだらう、その家は文房具を賣つてゐたので此の後も何時買物に行かなければならないか知れない。其の時邑の中へ入れても痛くない程に可愛がつてゐる父母の人に、どんなに叱られるだらうと考へると、只事では濟まない氣がして小さな胸をぐん〳〵締めつけられるのであつた。私は仕方なく二人の少女の後に從いて行つたが居所へ引かれる羊のやうであつた。そして母親に『私がしたんです』と言つて謝つた。『眼にでも當つたらどうするかね、して仕舞つたことは仕方あらすけ、これからは氣をつけるこつたね』と言はれて逃げるやうに走り出した。先生には何も言はれなかつた。仲のよい姉妹で姉を貞枝、妹を和枝と言ひ標緻も成績もいゝ少女達であつた。二年生の時のことである。

蕨が大地を割つて拳をあげるのは五月頃である。山は柔かな淡緑色に包まれる野火のあつた跡へは太く柔かな蕨が澤山に出た。しはでも其頭出た、或日友達と草鞋ばきで山狩りに行つた。滴水の滾々として湧き出す小さな澤を跨だからうとすると、蛙が悲し相な聲で鳴いてゐる。見ると一疋の蛙が小さな蛇に片足を呑まれて雨手を動かし喘いていてゐる。蛇の口からは血が流れてゐた。

私は急に蛇が憎らしくなつて傍の大きな石を持ち上げるといきなり蛇の背中へ落した。蛇は泥の中へめり込んだ。蛙は蛇の口から飛び出し無殘に剝がされた片足を引きずつて水の中へ隠れた。土が柔かかつたので蛇はやがてするりと拔け出して、水溜りを鎌首を上げ水足を殘し鮮かに泳ぎ渡つて草原の中へ隱れて了つた。あの蛙はきつと又あの蛇にやられるだらうと友は語つてゐた。

滿洲建國六週年記念

珠雲 小野務平

新興意氣亦豪哉
内外治[illegible]生[illegible]
築國[illegible]年六改
獨伊且究締盟來

いその日

○
寂しき、二人こゝろのしたしみに茶のみ茶碗を買ひに行くなり

赤彦

涙

薄 勇太郎

○吾を乗せて窓うつりする銀バスの自が姿をうつす家もうつりぬ
○さざ波の一つ一つが日をうつすかぎりなき陽に眼のくらみたり
○ビール壜二つかち合はせ破らんとす砂丘の上にあげひばりなく
○ねころんで砂丘のかげに風をさけうたをつくるさびん立てかくる
○はらばひてビンの破れ目に口を當てビールをのめば涙でにげり
○一びんに醉ひて悲しむはかなさに砂丘の上をまろびておちぬ

戰地の便り

市橋直治郎

『……井でゐるぞ』と
走り書
戰地の便り
ついた日よ
……せ……わた
お寫眞に
手折つて挿すば
仰の花
雪のけむりを

……したらして
突喊してる
兄さんに
姿……
目に見えて
繰り返し讀む
お便りを
お蝋……もして
お神棚
武運長久
いのりましよ。

ひばり

關昭一郎

ひばりがのぼる
畠から、麥から。
あれあれ、あれよ
ぽつんと黒い。
ほらまだ見える、
あの雲、あの中。
さす指さきよ、
つくしのにほひ。
つくしの鎧に、
菜の花まじつてゐる

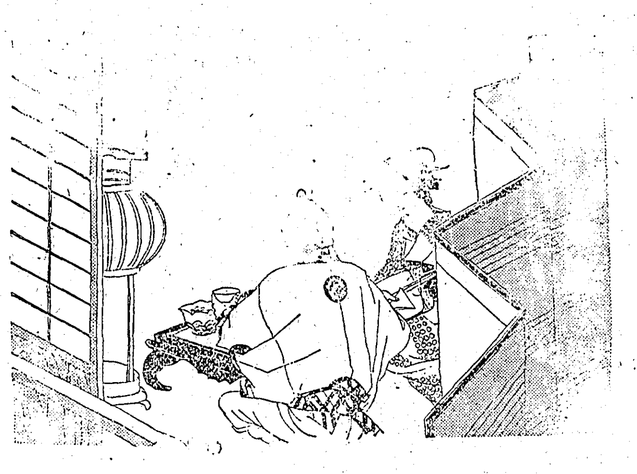
隱密小天狗

（上映） 中川雨之助
近藤紫雲 畫

（七） 雉町の湯女

彼は先づ、神田の雉子町へ、足を運び出したのであつた。それは、湯屋女を買ふ爲めであつた。

その頃吉原遊廓といふものは既に出來て居たけれど人氣はやはり落くからの湯屋女の方にあつた。



風呂屋は江戸の到る所にあつた。そして其處には若美しい湯屋女が働いて居た。湯屋は、暮七刻限りで湯を落してしまつた。晝間、客の背を流したり、髮を梳いたりする女は、夜は、化粧を凝らして二階の客席に現れた。そして酒の相手をする。三味線も彈く、無論色も賣る。

晝の風呂屋、夜は忽ち天國となるものであつた。

中でも神田雉子町の湯屋は、一ばん繁昌した。そこに色街の賑ひが夜毎に繰回されてゐた。

その中に『津の國屋』といふ風呂屋があつて、そこの湯屋女に小夜美といふ美人がゐた。

小夜美は『津の國屋』一等の流行妓で、また雉子町第一の人氣者であつた。

或の夜俊作は『津の國屋』へ登つて、小夜美を呼んだ。

風呂居の女のことなんか噂話に聞いたゞけの俊作であつた。そんなものは、いやしくも武士たる者の相手にする者でないと思つてゐた。湯屋女に戲れるやうな者は、武士の風上にも置けぬ者だと信じてゐた。

『ところで、その武士の風上にも置けない奴の仲間に他は這入てしまつたのだ』

と思ふと、俊作はさすがに情ないやうな氣がした。

情ないけれど、妹や圭之助を欺き。世間の目をゴマ化すためにはこれが一番有効だと考へた。

『戸田俊作は、近頃湯屋女に凝つて、切々と雉子町へ通ふさうな』

と、世間から嘲笑されたかつたのだ。嘲笑されたかつたが、しかし考へると、苦しかつた。悲しくもあつた。

今夜も亦彼は、『津の國屋』の二階で燈火映ゆる金屏風を後ろに小夜美の彈く三味線を聽きながら杯を重ねて居た。

凛として男らしい俊作の顏にも小夜美の美しい眼もとにも醉が浮いて居た。

暖かい春の夜であつた。ぞろぞろと往交ふ足音、ざれ唄。門づけの三味線。四つ竹の音などか、階下の町を流れて行つた。

『あなた。お酒は、もう宜い加減になさいまし。そんなに召上つては、お毒でございます』

杯を出した俊作の手を尻目に、小夜美は、銚子を伏せふやうにした。その眼から媚が溢れて居た。

『そのやうな、意地惡をあはす、もう一つだけ注いで呉れ。それを最後に切上げることにしよう』

『あれ！今夜も亦、お歸りでございますか』

小夜美は眼を見張つた。失望と怨みがその眼に滲んで來た。それは只、男を操らうとする手管とばかりは思へなかつた。何處かに眞劍味が溢れて居た。

『歸つては、いけないのかはゝゝ』

『いけませぬとも。歸るとおつしやつても滅多に歸すものですか』

『これ。輕はづみに、そのやうなことを言つて、若し泊るとでも言つたら、困るではないか』

『誰が――困るものですか、あなたこそ、お家に待つて居るお方がおありでせう』

さう言はれて、俊作は不圖、妹のことを思ひ出した。必配して寢もやらず、待ち侘て居るのであらう。

◎社員招聘
一、外務員 若干名
（イ）年令二十五歳以上五十才以下ノ男子ニシテ身體強健、身元確實、努力ノ人
（ロ）希望者ハ履歴書持參來社ノコト
（ハ）給料、手當其ノ他面談
右業務擴張ノ爲メ優遇招聘ス
營業科目 公債、債券、現物賣買、金融
平市鍛冶町十八番地
日本商事株式會社平支部
電話七三六番

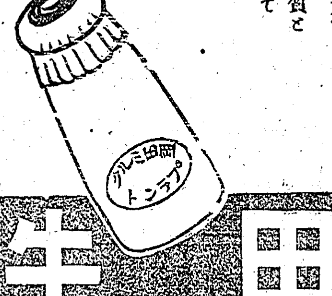
吸入用酸素 純度九九％
體温器 モノサシ ハカリ マス 寒暖計 度量衡
開内藥局
電話四〇番

新車のお知らせ
斷然!!! 乗心地良い!!!
三七年型フオード
入庫いたしました。是非！御試乗の程を！
市内四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

お醤油は……ヤマフル
味噌醤油 たひら正宗 鰹節 食料品
醤屋 山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

吸入用酸素
呼吸困難治療として早くおすゝめ下さい
流行感冒豫防に（マスク）各種あります
病氣豫知に（體温器）各種あります
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

旅舘 大和舘
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
電話下谷屋六七七番

斷然一賣行よし
信用と品質と共に備つて
低温殺菌
岡田牛乳


平市鎌田町
電話五一番

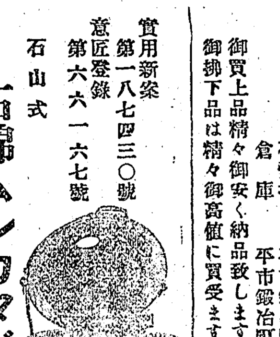
假營業所御知らせ
今般店舗改築の爲當分の間世界館前（元明雲堂）にて營業仕り候間從前通り御贔負相成度御願申上候
生そば 酒喜家
驛前 電話一七一番

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
一勉強振りを、ぜひ一度お試を乞ふ
織田材木商店へ
福島縣平市
電話平四六〇番
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田杉四分板 建具材・便利瓦

年令十四五才ノ
小店員募集
（委細御面談下さい）
精幸堂 高橋時計店
茨城縣助川町

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
十二封度レール、トロ車輪付附屬鐵工工具品・新品着荷致しました
製鐵原料問屋
東京製中古品旋盤
九呎旋盤 六时
八呎旋盤 四时
六呎旋盤 二时
六呎木工旋盤 一时半
ヒユガルポンプ
パーチカルポンプ 十五吋半九尺 十一吋半九尺 十一吋半六尺
十六吋セーパー
中古新品 發動機
モーター中古品
五馬力半ヤンマー 廿五馬力
三馬力半ヤンマー 十馬力 五馬力 一馬力
右の通り新品中古共入荷致しました。精々御用を乞ふ。

二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵機械 KS 井尻三七郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

石山式 實用新案第一八七四三〇號 意匠登録第六六一六七號
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保温力が強く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。

和洋銅物金物問屋
平市五丁目
釜屋商店

非常時意識の昂揚に 氣乘り薄のメーデー

平署でも催し物一切不許可方針

事變下のメーデーは愈よ兩三日の後にせまつたがこゝ數年來の全般的な左翼運動の衰退と事變勃發以來の澎湃たる民族主義の昂揚とに本年のメーデーは一向に前氣勢揚がらず特に取締りを要する處もないとされてゐる如くである、しかしながら事變下擧國一致の思想統制を必要とする折柄でもあり、縣特高課では旣に決定せられたメーデー當日の示威運動その他を一括する勞働祭の催し一切不許可の線に沿ひ、苟も國體明徵の基本的精神に反する如き集會行爲あるときは徹底的取締りを斷行する强硬方針を決定、炭礦、漁業地等を管內に有しこの方面の關心特に深かるべき平署でも之の趣旨を體して戰時下の治安維持特に萬遺漏なきを期するものと觀られてゐる

植田方部 乘客奪取解消

ガソリン節約を前に バスの路線統制成る

來月一日から實施されるガソリン消費統制に伴ひ各地バス營業者は木炭自動車の試用、一定路線の運轉回數減少などにより營業方針の建かへに取りかゝつてゐるが縣でもこの好機を逸せず一路線に數營業あるところは半强制的に路線統制を期すべく三日前縣保安課員が植田署に出張營業者を集めて協議し石城南部植田署管內の全路線の統制に成功競爭路線は解消した、路線統制により愈々車輛改善、ガソリン規正は一層强化される譯である、今後も全縣的に統制工作を續ける事となつたが現在未統制バス路線は約二百あり、當局の手際は注目されてゐる、植田署內の統制路線左の如し

一、上遠野—湯本線 鈴木子之吉 坂本淺吉 兩營業者により火の出る競走が續けられてゐたが、一萬七千圓の代償で鈴木氏が路線獨占

二、上遠野—植田線 鈴木子之吉 後藤義弘 渡邊重三郎の三營業者により共倒れ一歩前まで競ひ合つて居たが、後藤氏が他の二營業權を買收

三、湯本—植田線 坂本淺吉 矢內藤太郎兩氏が競爭してゐたが坂本氏が買收

四、植田—田人線 鈴木林平 逸見英夫氏の兩營業者があつたが、逸見氏が

煙草乾燥場 買收獨占

植田で誘致運動

旣報、煙草の試作栽培は愈よ今年度から着手するが植田方部は郡下の作付反別百六十反歩のうち百反歩を占める關係で早くも專賣局經營の乾燥場及び收納所の誘致運動を起してゐるこれによつて植田方部の煙草栽培熱はいよ〳〵高まつてゐる

酒商組合創設 新役員決る

平市並に郡下營業者約二千名で創設した『石城酒類商組合』初總會は二十五日市內聚樂館に開いたが出席千餘名、役員を左の如く選擧した

組合長五十嵐小平 副組合長永山男吉(平) 山野邊孫四郎(小名濱) 會計大竹義之助(平) 評議員六十五名、顧問川鍋稅務署長、菊地同署課長、草野酒造組合長

約四割が甲種合格

平市の徵兵檢査終る

平市の徵兵檢査は二十四、五の兩日行つたが受檢二百四十名

甲種九十三名(三割九分弱) 第一乙四七 第二乙五五 丙三六 丁八 戊二

といふ好成績だつた、甲種合格者左の如し

(本籍者)=須田行雄 菅野正雄 關內榮三 古川谿 眞田久 草野政夫 小泉作次 西脇幸一 小川直一 金子達 小川勇五郎 鈴木俊夫 高野健 高野正巳 丹野發之助 阿部敬二 池上義雄 佐竹正雄 駒組朝光 安政一 渡邊三好 西牧一巳 小沼惣次郎 草野健吉 田新一 助川金 坂下三善 吉田眞 佐藤健夫 佐藤福見 猪狩五郎 鹿島幹司 鈴木繁彌 佐藤咲藏 君島敏雄 岡田與平 熊田大造 大峰喜八郎 山本吉五郎 吉田秀男 藤原正七 猪狩勝巳 高木忠孝 田島忠勝 佐々木顯夫 根本健見 猪狩壽也 田中忠芳 高田久壽 林清一 阿部敏哉 新妻光司 福田一雄 薄葉一昌 福田延秋 松崎昌平 早川誠 會川三郎治 小野勝夫 明智正雄 鈴木竹雄 矢吹誠榮

(寄留)=武井嘉重郎 山內孝雄 大沼政男 丸山勇造 千葉六郎 高梨富雄 桐原松次郎 樋口廣 佐藤信雄 山本金壽 相澤康雄 小野兵吉 上杉善次郎 根本春三 服部良吉 青田清重 佐藤遠平 國分秀男 渡邊志農夫 中野春鄉 百澤易重 三浦清 佐藤直治 佐々木正己 横田尙友

(志願者)=但野富男 千葉一 鈴木信一 佐藤行一 薄葉光平 原野武夫

譽れの永年勤續者

自治制記念式に表彰

來る二十九、三十の兩日福島市縣教育會館並に市公會堂で擧行される縣主催の自治制發布五十周年記念式に當り自治功勞者として表彰される人々は左の如く決定何れも永年勤續の功勞者であるばかりでなく人格識見共に高遠なる人で縣の人選も嚴選を極めたといふ

△村長並に吏員を通じ三十年以上勤續
永戸箕輪組合 荻野倉太(五九)

△助役並に吏員を通じ三十年以上勤續
勿來町 古川忠八(六五)

△書記のみ二十五年以上勤續
平市 小泉長佐(五六)
赤井村 松崎珍平(四六)
飯野村 森山豊次(五〇)
草野村 三谷順發(五四)

△村會議員二十五年以上勤續
飯野村 北郷喜多次(五六)
川前村 新妻長吉(六〇)
好間村 大平新吉(七八)

丹後澤を遊覽地に

市內二丁目『月の家』安達新一さんから二十七日市有地丹後澤の使用願ひがあつた 水面及周圍を昭和十八年三月末迄借り受け養魚及遊園地にしたい希望である

凶作克服苗代品評會

凶作克服を目指して滿二郡聯合の凶作地苗代品評會を來月中旬縣主催で行ふべく準備中

英靈故山へ

横尾部隊の英靈六十柱は二十八日故山に還り三十日〇〇部隊營庭で倉林部隊と合同慰靈祭が執行される、本郡關係者左の如し

勿來町 酒井健一郎 上小川 佐藤勝五郎 內郷村 草野賞

。。。。。

前線から寄附

大浦村下仁井田根本三右門伍長は十圓、同村大森猪狩義雄伍長は五圓を何れも第一線から同村國防後援會活動資金として二十六日送つて來た

傷害

湯本町入山炭礦採炭夫菅田清(三六)は去る二十日夜自宅前を無燈火の自轉車で通つた同町寶海梶原三七(三三)と口論、下駄で梶原の頭に二週間の傷を負はせ平署へ

評論の野澤武藏氏

禁錮三ケ月を求刑さる

野崎、遠沼の平市會正副議長及び佐藤東京朝日新聞平通信部主任等が訴へ出た市內田町旬刊磐城評論執筆者野澤武藏(三四)氏に係る名譽毀損事件の公判は、一昨廿五日午前十時四十分から平區法廷に於て中谷裁判長係り富澤檢事關與、松野尾辯護士列席開廷されたがインテリ階級間の問題丈けに新聞人其他の傍聽も多くいつもとは一寸異つた公判風景を見せた。事實審理では四告訴人十二項の執筆事實を一々認めたが執筆の動機は『社會公益の爲め公知の事實を、自己の關係する新聞の拘束から離れ磐城評論に書いた迄で毫もその人の名譽を傷ける意思は無かつた』と述べ、之れにて審理を打ち切り、晝食少憩午後一時半再開、富澤檢事から此種の犯罪に對して罰金刑を科するは刑罰の本旨に反するものであるとて禁錮三ケ月の求刑あり滿廷異常の緊張裡に松野尾辯護士の新聞法第四十五條の解釋等に關する辯論あり二時閉廷した。判決言渡しは三十日午前十時

開通僅に十一個

希望に對して六分强 平局の電話飢饉

十二日で締切つた平局本年單獨電話加入申込は既報の如く近年に無い大多數一七三件で之に對し此程遞信局から通知された開通割當數は僅に舊規則に因る加入申込に對するもの四個、其他七個計一一個であつて、此の七個を二三日中に抽籤に附さいる譯で文字通りの電話飢饉である、尙同一人にて一個以上申込みと看取されたもの及射利の申込は抽籤前に除外されると

遞信講習所試驗

郵便局員の登龍門

—仙台遞信局講習所今年度第一回の普通科生採用試驗は六月一、二の兩日平市(場所未定)で行はれるが今度の採用は約六十名、來月十五日が願書締切りで規則書入用のものは返信料同封講習所に申込まれたいと卒業期直後の試驗だけに應募者も相當の數に上るであらうと云はれてゐる

雄魂毅魄を弔ふ

各村の公葬便り

護國の英靈に對する公葬その後の分次の如くである

(今二十七日)△玉川村大字住吉字新町歩兵上等兵高萩平穂君 △赤井村同佐藤繁君 △澤渡村大字下市萱字堀の內同三瓶理喜男君 △(二十八日)山田村大津歩兵少尉下山田通君 △(三十日)三坂村大字差鹽字仲の町歩兵伍長矢內榮治君 △(五月五日)永戸箕輪組合村歩兵伍長阿部友一君

陣中を聽く

……………(143)……………

荒凉の戰跡に立ち 皇軍の苦闘を想ふ

元平驛員 坂本仲家君(通信)

任地の陽氣は御地の櫻花が満開の時節です、日中は非常に暖く夜間は非常に寒く感じ重ね着で寢なくては弱い人は病氣に罹ります。大陸の氣候は不順の所です

昨日我等驛員〇名で蘇州の城內及城外視察をして來ましたが、我が皇軍がどの位働いたかと云ふ事を窺はれます、思ひ出しても涙ぐましい次第です、小生は日頃健脚を誇り益々元氣で勤務致して居ります、之れ皆樣の御蔭樣と感謝至して居ります、我等の宿舍もバラックに出來上り、〇數よりの派遣團は〇月頃より旅客輸送致すべく準備致して居ります、留守中家內色々御世話樣に相成り御一同樣に宜敷御願ひ致します

三月二十四日

明朗一色に

鎌田町出身 吉村榮助君

—お蔭樣にて吉村も益々元氣旺盛にて皇國のため將又東洋平和のため奮闘努力任務の達成に邁進致して居りますから御安心下さい (略) 北支はこゝ數ケ月の皇軍の奮闘により北支五省も(略)維新政府も建設して全く明朗一色に包まれて居ります(略)

今後も一層努力、銃後の皆樣方の御支援の萬分の一なりとも御酬ひ申上げる覺悟であります、先づは一報迄

前線から歸る

入山從業員 伊藤春夫君

天津出發し津浦線を南下し過日徐州入城、以來同地を出發津浦線南進し最前線にて任務に精勵致して居ります、小生等野戰病院各部隊〇〇〇〇に活躍致して居ります、前線にては交通が不便にて連絡が取れず最近やつと鐵道が開通し連絡が出來る樣になりました最近前線より歸つて來たばかりで今は〇〇市街にて服務致して居ります

古川氏息女

來る卅日葬儀執行

植田町長古川傳一氏息女登貴子さんは過般來病氣療養中であつたが百方手當ての効無く昨二十六日午後五時遂に永眠した、行年二十九夫君忠助氏との間に一男あり傷ましい夭逝は各方面に同情の淚を唆つてゐる。葬儀は來る三十日午後二時出棺同町常春院に於て執行すると

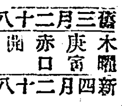
。。。。。。

公會堂工事變更 平市の公會堂は目下建設を急いでゐるが二十八日午前十時から委員會を開き工事一部の模樣替へについて協議

。。。。。。

果樹出荷打合せ 石城縣果樹組合では來月二日平團体事務所に出荷打合せ會を開き梨子のレッテル、包裝、箱等について協議

二十八日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前二、五五 後三、五五
干潮 前九、四〇 後一〇、〇〇



舊三月二十八日 木曜 庚寅 赤口 開 角宿 新四月二十八日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠

▲一白 奮起して能く功をたうすべし開店企業凡て吉▲二黑 努して益無し蜜態の爲持に努むるがよし▲三碧 なん弱と思はれても進出せざるが後の爲なり▲四綠 金運には穢違きも榮よを得るてうありて平運▲五黃 遠き慮なくして永く苦みに附まとばるべき日▲六白 進退意外に深酷にして再起容いならざる日▲七赤 分別なかきしつ蛮多からんとする日火難注意▲八白 はらん多くして小事より大事をひき起すべし▲九紫 計畫は豫期以上の進展力を發揮する幸運日

廣告

代理店 魁文堂
ウエル萬年筆 ライトインキ ムツソリイニペン ゼネラル、カーボン紙 ドンコ帳簿。ライカ帳簿 ニコ〜印高級ソロバン 優勝印高級ソロバン 雲州神國印ソロバン

酒とマヅイ おでんの榮ちやん 平市田町花ノ里 電話三三三番

おでん 一平(イッペイ) 電話二六三番

高久病院 院長 高久忠 電話五一三番

毛糸編物、毛メリヤス、モスリン、セル、オーバー、人絹ショール、本ネル、毛布子供服婦人服、背廣等のお洗濯に……
特許新洗劑 モノゲン
特約店 定價 二〇 三五
二丁目 中野洋品店
同 堀口藥局
四丁目 關口藥局
田町 ハシモトヤ糸店
只今各地宣傳中……
▲新繊維には・新洗劑▲
ス・フは決して弱くない
被服國策の折柄、スフ强制混用に依り、御家庭婦人は其の洗濯に就いて大いに考へねばなりません。スフは決して弱くないが水に濡れると、强さが著しく減つて伸び易く彈力が乏しく、なりますから揉み洗ひは絶對禁物です。又染色も他に比べると多少弱い氣味ですが其の洗ひ方と其の洗濯劑の御選定が正しければ完全に御洗濯出來ます
スフにモノゲンが何故良いか
モノゲンは高級アルコールから出來た特許新洗劑で、石鹸とは全然製法や組成を異にしその性質は中性(アルカリ性でも酸性でもない)で生地を傷める事なく、只水に浸けただけで落ちる樣な染色でない限り落ちの心配なく美しく洗へ、更に强い滲透力と相まつて、ごし〳〵揉み洗ひをする必要なく、ス・フ織物や其の混用品の御洗濯には理想的です
モノゲン
漬けて十分間揉まずに落ちる

開業 內科、小兒科 鈴木醫院 平市鍛冶町八番地 (吉田屋吳服店西隣) 電話(呼)一、一〇

玉屋ノ眼鏡

吉田眼科醫院

大報院葬送の際は御多忙中遠路の處御會葬被下且つ叮重なる御香奠を賜り難有御厚禮申上候 敬白
昭和十三年四月二十七日
鷹崎久雄
田久要吉

長女登貴子儀病氣療養中ノ處本日午後五時五分死去致シ候ニ付此段謹告候也
追テ葬儀ハ本月三十日午後二時自宅出棺當町常春院ニ於テ佛式相營ミ可申候
昭和十三年四月二十六日
福島縣石城郡植田町
父 古川傳一